



きいちしポート6

平成25年3月議会報告

ごあいさつ

議員となって丸一年が経過しました。平成25年3月議会は、議員二年目の最初の議会となります。これまで議員活動を通して吉川市政に触れてきましたが、新たな気持ちを持ちつつ、この間の活動で感じた吉川市政の課題と思われるテーマについて、市長の見解を伺いました。



柏市のオンデマンドバス

AEDの活用訓練について

まず1点目は、AEDの普及促進事業について。これを取り上げた理由は、AEDは平成21年度までに、吉川市内68か所の公共施設に置かれ、設置事業が終了しています。しかし、設置終了とともにAEDに関する事業名が消えていたため、その後の普及について市は、どのように考えているか疑問に思われたため質問しました。

問 AEDは設置が目的ではなく非常事態に備える活用訓練の普及が課題ではないか。

答 いざという時にAEDを適切に操作できることが市民の命を守るために大切と認識。今後も講習の充実に努めていく。



設置されたAED

三輪野江地域のビジョンについて

2点目は、昨年9月の議会で市長が答弁されたように、産業まちづくり地域に位置づけられた三輪野江地域は、白地地区であり無秩序な開発に対する危惧があります。その上で市長は、開発に関するビジョンの必要性に言及されました。最近、土地利用の変更をともなう開発の動きがあるので、それを踏まえて、早急にビジョンを定めるべきではないかという意味で質問を行いました。

問 三輪野江地域に土地利用変更の動きがある。秩序ある開発のためビジョンを定めるべき。

答 新たな開発ビジョンを示すのは、三輪野江地域が産業まちづくり地域に位置づけられた経緯から難しいが、無秩序な開発とならないよう住民と行政が連携していく。

須賀・榎戸地域の河川敷活用について

3点目は、同じ産業まちづくり地域に位置づけられている須賀・榎戸地域で、国による堤防工事が行われ、広大な河川敷スペースが生まれようとしています。吉川市の総合振興計画の中に明確な位置づけが示されていないため、大切な資源として活用すべきではないかという意図で質問しました。

問 須賀地域の中川堤防改修後には河川敷スペースの活用策を検討するべきではないか。

答 工事完了後に確保される河川敷スペースは貴重な公共空間であり、水辺空間を活かした施設整備などを市の整備方針とする。

高齢化社会での移動支援について

4点目は、市民バスが廃止されたあと、吉川美南駅の開業にあわせて路線バスルートが新設されましたが、本数が限られ不便なため利用率が少ないというのが偽りない現状です。そこで急速に進んでいる高齢化の課題として、特に交通不便な市街化調整区域内の高齢者を対象に、移動を支援するバスシステムの導入を検討するべきではないかという提案を行いました。

問 高齢化社会における移動支援は、甲州市などで導入が進んでいるオンデマンドバスなどの、費用と効果に優れた先進バスシステムの導入を検討すべきでは。

答 高齢化は着実に進んでおり、日常生活における移動手段の確保が重要になってくる。これまでの路線バスの利便性向上に合わせ、バスと自家用車の間を埋める新しい交通手段についても調査研究していく。